



片山会長に書き損じはがきを手渡す山内君(右)と石田君

西浅井中学生徒会

受け継がれた伝統で手助け

善意の4500枚、ユネスコに

西浅井中学校生徒会(134人)は22日「ユネスコ世界寺子屋運動」で集まった書き損じはがき約4500枚を長浜ユネスコ協会片山勝会長に寄贈した。同校生徒会は20年ほど前から、この運動に賛同し積極的な回収を継続。毎年、4000枚近くのはがきを集めており、同協会によると市内全回収昨年の場合、1万3138枚の約3割を占めていたという。今年も町内各戸にチラシを配布し、5日から11日まで回収運動を展開した。

この日は校長室で生徒会長の山内実良君(2年)、副会長の石田壮馬君(1年)から片山会長に書き損じはがき4514枚と未使用切手133枚が手渡された。

山内君らは先輩から受け継が

れてきた運動学校に行けない人たちの手助けになればと話し、片山会長は「地域の善意ともいえる『タンス遺産』が、世界の識字教育に役立っていると敬意を述べた。集まった書き損じはがきは郵便局で切手に交換し、日本ユネスコ協会連盟を通じて、識字率の低いカンボジア、ネパール、アフガニスタンの校舎建設や鉛筆消しゴムなどの購入など、教育支援に役立てられている。長浜ユネスコ協会は市内の学校や商店に募金箱を設置するなどし、運動を広げている。

なお、カンボジアでは書き損じはがき1枚で、1人の子どもが1カ月通学でき、同協会によると寺子屋運動のおかげで学んだ人は約130万人に達するという。

